

(2) - 4) ⑤野草・薬草資源の保全活用を通じた島の生業づくり (沖縄県島尻郡伊平屋村)

島の野草・薬草資源や伝承されている食文化の知恵や技術を用いて、里地里山保全と観光交流の両面での活用を展開。野草・薬草活用を通じて、島の生業を活性化させることによる次世代の担い手育成にも取り組んでいる。

a. 取組の背景と経緯

沖縄県伊平屋村は、沖縄県の有人島としては最北端に位置する伊平屋島を主島とする人口約 1300 人の村である。イヘヤヒゲクサやイヘヤヤマタカマイマイ、イヘヤカゲモドキなど地域名を持つ野生生物も生息している。

この地域で伝統的に食されてきた野草や薬草が近年、日常の食材として市販、流通されなくなったことにより、伝統食材や伝統料理の衰退が懸念されている。そこで高齢者が中心となり家庭菜園などで伝統食材を栽培し、自家用やさらに一般への普及を目指すなどの活動が展開してきた。

b. 活用方法

■地域の自然・文化資源保全のテーマ利用

野草や薬草の種苗生産の圃場整備を通じて、里地里山の保全活用活動を促進させている。また、伝統的な野草・薬草料理の伝承、新たな野草・薬草料理の開発等に取り組んでいる。

■交流・観光への活用

伊平屋祭りにおいて薬草料理や農産物加工品をPR販売したり、ムーンライトマラソン等のイベントなどへの提供に利用している

c. 保全活動や野生生物への効果

野草・薬草の栽培を通じた里地里山保全の効果と、交流・観光への活用を通じた地域活性化との両面で成果が見込まれている。また野草・薬草による島の生業づくりにより、高齢者家庭の生甲斐だけでなく島の次世代への伝承や担い手育成への効果も期待されている。